

様式 1-1-4-1 中期目標管理法 年度評価 項目別評価調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）様式

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
I-3-3	地球環境基金の運用等		
業務に関連する政策・施策	—	当該事業実施に係る根拠（個別法条文など）	独立行政法人環境再生保全機構法第 15 条
当該項目の重要度、難易度	—	関連する政策評価・行政事業レビュー	8. 環境・経済・社会の統合的向上 8-3. 環境パートナーシップの形成

注 1) 重点化の対象としない項目については、法人の業務管理に活用しやすい単位ごとに、複数の項目をまとめて作成することが可能

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット（アウトカム）情報							②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）							
指標等	達成目標	基準値 (前中期目標期間 最終年度値等)	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度		令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	
〈関連した指標〉									予算額（千円）	973,824	956,634	995,122		
SNS（ツイッター、インスタグラム掲載数、フォロワー数）	—	—	ツイッター掲載数：118件、フォロワー数：484人 インスタグラム掲載数：91件、フォロワー数：167人	ツイッター掲載数：145件、フォロワー数：708人 インスタグラム掲載数：129件、フォロワー数：320人	ツイッター掲載数：195件、フォロワー数：1,388人 インスタグラム掲載数：89件、フォロワー数：447人			決算額（千円）	884,213	762,899	850,278			
特定寄付金の受け入れ金額	—	第3期中期目標期間実績：平均13,750千円	18,000千円	18,000千円	18,000千円			経常費用（千円）	904,907	782,688	850,920			
基金の運用益	—	第3期中期目標期間実績：平均185百万円	82百万円	88百万円	87百万円			経常利益（千円）	93,580	190,049	179,828			
								行政コスト（千円）	989,474	782,688	850,920			
								従事人員数	11.5	11.5	11.5			

注 2) 複数の項目をまとめて作成する場合には、適宜行を追加し、項目ごとに主要な経年データを記載

注 3) 予算額、決算額は支出額を記載。人件費については共通経費分を除き各業務に配賦した後の金額を記載

注 4) 上記以外に必要な情報があれば欄を追加して記載しても差し支えない

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画 (令和3年度)	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評 定	
<p>(3) 地球環境基金の運用等</p> <p><評価指標></p> <p>(A) 基金の充実のための、助成対象活動の国民・事業者に対する理解促進</p> <p><関連した指標></p> <p>(a1) SNS (ツイッター、インスタグラム掲載数、フォロワー数)</p>	<p>(3) 地球環境基金の運用等</p> <p>(A) 環境NGO・NPOが行う助成活動の国民・事業者等に対する理解促進を通じて、基金の充実につなげるため、以下の取組を行う。</p> <p>① ホームページ、SNSを通じた積極的な広報・周知を行うとともに、環境NGO・NPOが開設するホームページのリンク化を進めることで助成活動への理解促進、意識向上を図り、個人や企業等による寄付の確保に努める。</p>	<p>(3) 地球環境基金の運用等</p> <p>(A) 環境 NGO・NPOが行う助成活動の国民・事業者等に対する理解促進を通じて、基金の充実につなげるためコロナ禍においてもオンライン等の手法を活用し、以下の取組を行う。</p> <p>① ホームページ、SNSや各種媒体を通じた積極的な広報・周知を行い、地球環境基金事業の理解促進に努める。また、環境NGO・NPOが開設するホームページのリンク化を進めることで助成活動及び個々の団体が行う活動への理解促進、意識向上を図り、個人や企業等による寄付の確保に努める。</p>	<p><主な定量的指標></p> <p>SNS (ツイッター、インスタグラム掲載数、フォロワー数)</p>	<p><主要な業務実績></p> <p>(A)環境NGO・NPOが行う助成活動の国民・事業者等に対する理解促進及び基金の充実</p> <p>① ホームページ、SNSを通じた積極的な広報・周知、個人や企業等による寄付の確保</p> <p>i) ホームページ、SNSを通じた広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成先団体(最終年度)の活動成果の動画配信、子どもの環境学習情報コンテンツ(グリーンフレンズ)をリニューアルするなどホームページコンテンツを充実した。 ・日常的なエコ活動の身近な情報の発信やキャンペーンと広告を組み合わせることでツイッターのフォロワー数が1,388人(対前年比96%増)に大きく増加し、効果的な広報展開を図ることができた。 ・インスタグラムでは助成先団体の活動紹介や絵画コンテストを開催するなど積極的に投稿した。インスタグラムのフォロワー数は447人(対前年比40%増)に増加した。 <p>ii) 新聞、広報誌等による広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古本を活用した寄付メニュー「本de寄付」の募金を広く周知するため、新聞広告(東京新聞2回掲載)及び高齢者向け情報誌「はいから」に広告を掲載した。 ・広報誌「地球環境基金便り」(9月、3月、各37,000部発行)については、寄付者、自治体、高等学校、NPOセンター等約8,000箇所へ送付した。No.52号(3月発行)では、「再生可能エネルギーの現在と未来」と題した特集を組み、カーボンニュートラルの実現に向けてNGO・NPOが取り 	<p><評定と根拠></p> <p>評定：B</p> <p>以下のとおり、年度計画に基づく取組を着実かつ適正に実施したため、自己評定をBとした。</p> <p>○ SNS(ツイッターとインスタグラム)による情報提供を積極的に行い、効果的に広報展開することでフォロワー件数が大幅に増加した。</p> <p>○ 令和3年度は、スマートフォンによる寄付方法として、新たにJ-Coin Pay「ぼちっと募金」及び「メルカリ寄付」からの受入を実施し、個人の寄付件数を増加することができた。</p> <p>○ 企業協働プロジェクトへの特定寄付においては、事業の意義や活動の成果を理解していただくことで、令和2年度同額の寄付が得られた。</p> <p>○ 著しい低金利が続く中、資金の安全性の確保を最優先した上で、環境への配慮を踏まえた運用を行い、昨年度とほぼ同水準の運用益を得ることができた。</p> <p><課題と対応></p> <p>○ 広報誌の発行やSNSによる発信など効果的な広報展開が図れるよう広報の充実・強化に努める。</p> <p>○ また、企業協働プロジェクトに対して持続的に特定寄付を得ることができるよう、事業の意義や活動効果を企業に働きかけることで寄付の受け入れに繋げていきたい。</p> <p>○ 子どもの環境学習情報コンテンツ「グリーンフレンズ」は各種イベントや環境出前授業等の環境教育の場で活用し、子供を中心とした世代に対し幅広く普及させていきたい。小中学生の来場者が多い「エコプロ」においても、環境教育と広報活動を重点的に展開していきたいと考えている。</p>	<p>評 定</p> <p><評定に至った理由></p> <p><その他事項></p>	

<p>(a2) 特定寄付金の受け入れ金額（前中期目標期間実績：平均13,750千円）</p> <p>(B) 安全かつ有利な資金運用</p> <p><関連した指標></p> <p>(b1) 基金の運用益（前中期目標期間実績：平均185百万円）</p>	<p>② 寄付を行った企業、団体の名称が明らかになることにより貢献度が明確となる地球環境基金企業協働プロジェクトへの寄付について、前中期目標期間で受け入れた水準以上の寄付を獲得するよう努める。</p> <p>(B) 安全かつ有利に資金を運用するため、以下の取組を行う。</p> <p>① 安全かつ効率的に運用を行い、前中期目標期間と同水準の運</p>	<p>② 環境に対する企業の貢献度が明確な、地球環境基金企業協働プロジェクトへの寄付について、前中期目標期間で受け入れた水準以上の寄付を獲得するよう努める。</p> <p>(B) 安全かつ有利に資金を運用するため、以下の取組を行う。</p> <p>① 低金利が続いている状況を踏まえ、市場等の動向を一層注視しつつ、</p>	<p>特定寄付金の受け入れ金額（前中期目標期間実績：平均13,750千円）</p> <p>基金の運用益（前中期目標期間実績：平均185百万円）</p> <p><その他の指標></p> <p>—</p>	<p>組んでいる活動を紹介した。また、取材した助成先団体の活動等をスマートフォン等から手軽に閲覧できるように、YouTube ERCA 公式チャンネルに動画を公開し、環境問題への意識向上・啓発に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地球環境基金レポート」（12月発行）では、活動成果の優れた取組を広く普及するため、ベストプラクティスを取り上げ、寄付者や助成先団体など1,633箇所へ送付した。 <p>iii) イベント等への出展</p> <p>11～12月に開催された環境イベント「エコプロ2021」にブース及びオンライン出展し、地球環境基金事業や企業協働プロジェクトの認知度向上に取り組んだ。</p> <p>iv) 個人や企業等による寄付の確保</p> <p>古本を活用した寄付メニュー「本 de 寄付」等の積極的な広報、J-Coin Pay「ぼちっと募金」及び「メルカリ寄付」の受入を新たに令和3年度より実施した結果、個人寄付の件数が大幅に増加（対前年度23.7%増）した。</p> <p>令和3年度は、寄付件数1,427件、23,638千円の寄付額を受け入れた。</p> <p>②地球環境基金企業協働プロジェクトへの寄付の獲得</p> <p>従前より企業協働プロジェクト（LOVE BLUE 助成）に寄付をいただいている業界団体（（一社）日本釣用品工業会）に対して本プロジェクトの意義や助成先団体の活動の成果等を理解いただくことで、令和2年度と同額の寄付を得ることができた。</p> <p>また、全国ユース環境ネットワーク促進事業では、令和2年度と同じ4社から賛同をいただき、同額の寄付を得ることができた（総額3,000千円）。</p> <p>(B) 安全かつ有利な資金運用</p> <p>① 安全かつ効率的な運用</p> <p>著しい低金利が続く中、資金の安全性の確保を最優先した上で、環境への配慮を踏まえた運用を行った。</p>	<p>○ 低金利環境が見込まれる中、引続き長期的に安定した運用益を得るポートフォリオを構築するとともに、安全かつ環境に配慮した資金運用を行っていききたい。</p>	
--	---	---	--	--	---	--

		利益の獲得に 努める。	運用方針に基づき、安全 性の確保を最優先に、効 果的な運用を行う。	<評価の視点> ・			
--	--	----------------	---	--------------	--	--	--

注5) 複数の項目をまとめて作成する場合には、適宜行を追加し、項目ごとに評定と評定に至った理由を明記。ただし、「主な評価指標」や「業務実績」欄については、複数の項目にまたがってまとめて記載することが可能

4. その他参考情報